

本特集では原則的に、37の“人気”研修プログラムを同一のフォーマットで、見開きページにまとめて紹介しています。なお、37プログラムの選別にあたっては、本誌編集委員会にて十分に検討した結果、「2018年4月の専攻医採用数が3名以上」であったプログラムを“人気”にとらえ、その選別基準としています。

ここで取り上げている以外の研修プログラムについては、より簡易的な総覧という形で一挙紹介していますので、本号 p. 107-123をご覧ください。

■研修プログラムの名称■

掲載順は、都道府県順で北から南に、同都道府県内ではプログラム名の“あいうえお順”となっています。

■募集・採用実績■

原則それぞれ、2017年4月・2018年4月の募集定員数と専攻医採用人数を示しています。

なお、2017年度は日本専門医機構によるプログラム研修制度が行われておらず、なかにはプログラム制での専攻医募集がなかった施設もございます。その場合には、「カリキュラム制で採用〇名」などと記載されています。

■連携・関連施設紹介■

連携・関連施設は、数も規模も地域も、プログラムによって千差万別です。

その全連携・関連施設名を掲示するとともに、連携・関連施設における救急医療の特徴や研修体制を、簡潔にご紹介いただきました。

01 札幌医科大学附属病院救急科専門医研修プログラム

<p><b>基幹施設</b> 札幌医科大学</p> <p><b>統括責任者</b> 成松 英智 (札幌医科大学救急医学講座教授)</p>	<p><b>2017年度実績</b> 募集定員：10名 採用人数：2名</p> <p><b>2018年度実績</b> 募集定員：10名 採用人数：5名</p>
--	---

- 連携・関連施設名**
- 市立函館病院救命救急センター
  - 市立札幌病院救命救急センター
  - 手稲深仁会病院救命救急センター
  - 旭川赤十字病院救命救急センター
  - 市立釧路総合病院救命救急センター
  - 帯広厚生病院救命救急センター
  - 災害医療センター救命救急センター
  - 北見赤十字病院救命救急センター
  - 勤医協中央病院
  - 札幌徳洲会病院
  - 札幌東徳洲会病院

**連携・関連施設はこんなところ！**

多様な救急が経験できる連携施設を用意しています。

①地域の救命救急センター（市立函館、市立釧路、帯広厚生、北見日赤、旭川日赤）：北海道は広大なため、通常県単位である三次医療圏が6つに分かれています。札幌以外の医療圏の「最後の砦」であり、地域の救急機能が集中している施設です。②都市型救命救急センター（手稲深仁会、市立札幌、災害医療センター）：救急専従医が多く、経験豊富な先輩救急医から指導を受けられます。③ER系救急（手稲深仁会、勤医協中央、札幌徳洲会、札幌東徳洲会）：ER研修が可能です。④ドクヘリ病院（手稲深仁会、市立函館、市立釧路、旭川日赤）：道内ドクターヘリ基地病院のすべてが連携施設です。

**こんな救急やっています！**

基幹施設の札幌医科大学は、北海道唯一の高度救命救急センター、基幹災害拠点病院、MC 統括医療機関であり、北海道の救急医療の中心を担っています。歴史も古く、1971年に災害外傷部として設立されて以来、コンスタントに救急直接入局者が続いており、現在およそ30名が教室人事で関連病院に派遣されています。長年生え抜きの救急医を育成してきた十分な実績があります。

大学は三次救急に特化した施設で、クローズドの救急専用ICUと病棟があり、ほとんどの治療はセンター内で完結します。三次救急患者の集中治療や重症外傷治療、ECMO 管理を売りにしています。大学には現在、救急科指導医5名、救急科専門医13名と指導者も多く、そのほとんどが当講座に入局して大学と関連施設で研修をつんできた先輩方です。

勤務体制は勤務交代性で、朝夕の症例カンファレンスと朝の多職種机上回診を毎日実施しており、教室員の派遣先である関連病院（市立函館、手稲深仁会、市立釧路）とも週に1回、ビデオ会議システムを使用した勉強会を実施しています。また、研究活動や学術活動も盛んで、若手への指導もいっしょにしています。新しい仲間をいつでも歓迎しております。

■こんな救急やっています！■

搬送件数、患者数、受け入れ疾患の傾向、診療体制の特徴、病院前医療・災害医療体制など、基幹研修施設における救急医療の実態や特徴がまとめられています。研修プログラムの大きな方向性を見極める参考に。

■うちのプログラムはココがスゴい！■

各研修プログラムのアピールポイントです。何を指して、どのような研修が、どのような体制で受けられるのか、そしてどのような専攻医が集まってきているのか。指導医の先生方が研修に込められている思いこそが、研修プログラムの魅力につながっているはずですよ。

うちのプログラムはココがスゴい！

本研修は「全身管理に強い救急医」を3年間で育成するプログラムです。「1年目を大学病院での研修、2・3年目を地域の救命救急センターでの研修」を基本とします。

1年目の大学病院では毎日3名程度の少人数の重症患者を主体的に担当します。1日の勤務のほとんどを担当患者の治療にあてられる環境であり、マンパワー豊富な大学でなければ用意できない環境です。地味な作業ですが病態を丁寧に観察して治療することで、1年後には医師人生の基礎となる全身管理を身につけることができます。指導医とのディスカッションや勉強会が多いのも魅力です。三次救急や重症外傷治療、ECMO 管理の経験も赤りの一つです。

残りの2年間は、1年目で身につけた全身管理の能力を、high volume な救命救急センターで存分に発揮してもらいます。幅広い救急患者の初療から入院管理を主体的に経験してもらい、3年間で何がきても怖くない救急医が完成します。ヘリ希望者はドクヘリ病院で研修してもらい、2年目の1月には一人立ちを目指します。

教室では伝統的に「来るもの拒まず、去る者追わず」をモットーに活動していますので、どなたでも大歓迎です。プログラム終了後は必ずしも教室に残らなくてよいです。残ってくれた場合は指導者側に回っていただきますので、皆が指導する好循環ができあがっています。手本となる先輩救急医が多く、プログラム終了後のキャリア形成にも有益な環境だと思います。

◎専攻医からの声！

当プログラムは基幹施設が北海道唯一の高度救命救急センターであり、重症症例の経験を十分に研修することが可能です。入院後管理も当科の closed ICU で行うため、初期対応のみならず、集中治療についても研鑽を積むことができます。また、札幌医科大学附属病院は ECPR を含めた ECMO のわが国における草分け的存在であり、2017年度は実に50例を超える ECMO 導入・管理を行い、良好な治療成績を得ております。私はもともと蘇生医学、集中治療、ECMO に興味を持っており、そんな自分にとってうってつけのプログラムと思い、選択しました。

後期研修1年目は基幹病院で研修を行い、三次救急を主体に研修しました。重症外傷、敗血症、熱傷、ECMO 症例などで、初期治療から退院までの診療に携わることができました。もちろんバックアップ体制は整っており、経験豊富な上級医の意見をたくさん頂戴できる環境となっています。科内勉強会や学会参加も活発に行われ、私自身は海外学会での発表も行って非常によい経験ができました。現在は後期研修2年目として、関連施設である手稲深仁会病院で研修を行っています。基幹病院での研修とは異なって ER 型救急やドクターヘリなどが主体となり、多様なスタイルの救急を経験できています。当プログラムでは多様化する救急医のコースに応えられるものと思います。興味がある方はまずご一報を！お待ちしております！

■問い合わせ先

担当教員	上村 修二 (札幌医科大学救急医学講座)	基幹研修施設ホームページ	http://web.sapmed.ac.jp/tccm/recruit.html
TEL	011-611-2111	QRコード	
FAX	011-611-4963		
mail	smuqq@sapmed.ac.jp		

■問い合わせ先情報■

研修プログラムに興味をもちたら、こちらを参考に連絡を。募集・応募要項などより詳細な情報は、QR コードから基幹研修施設などのホームページにアクセスしてご確認ください。

なお、各研修プログラムの詳細については、へるす出版編集部へお問い合わせいただいても回答いたしかねますので、ご注意ください。

■都道府県名タブ■

基幹研修施設の立地する都道府県を示しています。地元のプログラムを探すもよし、憧れのあの場所のプログラムを探すもよし。

■専攻医からの声！■

実際にその研修プログラムのもとで研修を行っている専攻医による紹介です。なぜこのプログラムを選んだのか、実際に研修を開始してどのように感じているか、将来はどのような道に進もうと考えているかなど、専攻医のリアルな声を感じてください。

01

北海道

# 札幌医科大学附属病院 救急科専門医研修プログラム

基幹  
施設

札幌医科大学附属病院

統括  
責任者

成松 英智  
(札幌医科大学救急医学講座教授)

## 2017年度実績

募集定員：10名 採用人数：2名

## 2018年度実績

募集定員：10名 採用人数：5名

## 連携・関連施設名

- 市立函館病院
- 手稲溪仁会病院
- 市立釧路総合病院
- 国立病院機構災害医療センター
- 市立札幌病院
- 旭川赤十字病院
- 帯広厚生病院
- 北見赤十字病院
- 勤医協中央病院
- 札幌徳洲会病院
- 札幌東徳洲会病院

## 連携・関連施設はこんなところ！

多様な救急が経験できる連携施設を用意しています。

- ①地域の救命救急センター（市立函館、市立釧路、帯広厚生、北見日赤、旭日日赤）：北海道は広大なため、通常県単位である三次医療圏が6つに分かれています。札幌以外の医療圏の“最後の砦”であり、地域の救急機能が集中している施設です。
- ②都市型救命救急センター（手稲溪仁会、市立札幌、災害医療センター）：救急専従医が多く、経験豊富な先輩救急医から指導を受けられます。
- ③ER系救急（手稲溪仁会、勤医協中央、札幌徳洲会、札幌東徳洲会）：ER研修が可能です。
- ④ドクヘリ病院（手稲溪仁会、市立函館、市立釧路、旭日日赤）：道内ドクターヘリ基地病院のすべてが連携施設です。

## こんな救急やってます！

基幹施設の札幌医科大学附属病院は、北海道唯一の高度救命救急センター、基幹災害拠点病院、メディカルコントロール統括医療機関であり、北海道の救急医療の中心を担っています。歴史も古く、1971年に災害外傷部として設立されて以来、コンスタントに救急直接入局者が続いており、現在およそ30名が教室人事で関連病院に派遣されています。長年生え抜きの救急医を育成してきた十分な実績があります。

大学病院は三次救急に特化した施設で、クローズドの救急専用ICUと病棟があり、ほとんどの治療はセンター内で完結します。三次救急患者の集中治療や重症外傷治療、ECMO管理を売りにしています。大学には現在、救急科指導医5名、救急科専門医13名と指導者も多く、そのほとんどが当講座に入局して大学と関連施設で研鑽を積んできた先輩方です。

勤務体制は勤務交代性で、朝夕の症例カンファレンスと朝の多職種机上回診を毎日実施しており、教室員の派遣先である関連病院（市立函館、手稲溪仁会、市立釧路）とも週に1回、ビデオ会議システムを使用した勉強会を実施しています。また、研究活動や学術活動も盛んで、若手への指導もいき届いています。新しい仲間をいつでも歓迎しております。

## うちのプログラムはココがすごい！

本プログラムは「全身管理に強い救急医」を3年間で育成するプログラムです。「1年目を大学病院での研修、2・3年目を地域の救命救急センターでの研修」を基本とします。

1年目の大学病院では毎日3名程度の少人数の重症患者を主体的に担当します。1日の勤務のほとんどを担当患者の治療にあてられる環境であり、マンパワー豊富な大学病院でなければ用意できない環境です。地味な作業ですが病態を丁寧に考察して治療することで、1年後には医師人生の基礎となる全身管理を身につけることができます。指導医とのディスカッションや勉強会が多いのも魅力です。三次救急や重症外傷治療、ECMO管理の経験も売りの一つです。

残りの2年間は、1年目で身につけた全身管理の能力を、high volumeな救命救急センターで存分に発揮してもらいます。幅広い救急患者の初療から入院管理を主体的に経験してもらい、3年間で何がきても怖くない救急医が完成します。ヘリ希望者はドクヘリ病院で研修してもらい、2年目の1月には一人立ちを目指します。

教室では伝統的に「来るもの拒まず、去る者追わず」をモットーに活動していますので、どなたでも大歓迎です。プログラム修了後は必ずしも教室に残らなくてよいです。残ってくれた場合には指導者側に回ってもらいますので、皆が指導する好循環ができあがっています。手本となる先輩救急医が多く、プログラム修了後のキャリア形成にも有益な環境だと思います。

## 専攻医からの声！

[担当専攻医名：和田健志郎]

本プログラムは基幹施設が北海道唯一の高度救命救急センターであり、重症症例の経験を十分に研修することが可能です。入院後管理も当科のclosed ICUで行うため、初期対応のみならず、集中治療についても研鑽を積むことができます。また、札幌医科大学附属病院はECPRを含めたECMOのわが国における草分け的存在であり、2017年度は実に50例を超えるECMO導入・管理を行い、良好な治療成績を得ております。私はもともと蘇生医学、集中治療、ECMOに興味をもっており、そんな自分にとってうってつけのプログラムと思い、選択しました。

後期研修医1年目は基幹施設で研修を行い、三次救急を主体に研修しました。重症外傷、敗血症、熱傷、ECMO症例などで、初期治療から退院までの診療に携わることができました。もちろんバックアップ体制は整っており、経験豊富な上級医の意見をたくさん頂戴できる環境となっています。科内勉強会や学会参加も活発に行われ、私自身は海外学会での発表も行って非常によい経験ができました。現在は後期研修医2年目として、関連施設である手稲溪仁会病院で研修を行っています。基幹病院での研修とは異なってER型救急やドクターヘリなどが主体となり、多様なスタイルの救急を経験できています。

当プログラムでは多様化する救急医のニーズに応えられるものと思います。興味がある方はまずご一報を！お待ちしております！

## 問い合わせ先

担当者名 上村 修二 (札幌医科大学救急医学講座)  
TEL 011-611-2111  
FAX 011-611-4963  
mail smuqq@sapmed.ac.jp

## 基幹施設等ホームページ

<http://web.sapmed.ac.jp/tccm/recruit.html>



# 「救急科専門研修プログラム総覧」に関する諸注意

## 【掲載プログラムについて】

本総覧に掲載されているのは、弊誌の企画内容にご賛同いただいたうえ、基幹研修施設よりアンケートのご回答をいただいた救急科専門研修プログラムです。すべての救急科専門研修プログラムを漏れなく掲載・紹介しているものではありませんので、ご注意ください。

各研修プログラムの詳細については必ず、それぞれのホームページや、日本救急医学会による情報サイト「救急医をめざす君へ」(https://qqka-senmoni.com/)をご参照ください。

なお、本特集前段で紹介している37の人気研修プログラム(2018年4月の専攻医採用数が3名以上であったもの)については、本総覧には掲載していません。

## 【紹介内容について】

本総覧で紹介している内容は、上記の通り基幹研修施設から回答をいただいたアンケートに基づいたものです。

### 実績:

原則それぞれ、2017年4月・2018年4月の募集定員数と専攻医採用人数を示しています。なお、2017年度は日本専門医機構によるプログラム研修制度が行われておらず、なかにはプログラム制での専攻医募集がなかった施設もございます。その場合には、2017年度の実績として「一」、もしくは「カリキュラム制で採用〇名」などと記載されています。

### 特徴:

救急医療における大まかな領域について、それぞれ「◎」「○」「△」「×」の4段階で自己評価いただいたものです。各研修プログラムの得意分野・苦手分野がひと目でわかります。

### 連絡先:

各研修プログラムの詳細については、へるす出版編集部へお問い合わせいただいても回答いたしかねます。興味をもったプログラムがあれば、こちらの連絡先にお問い合わせいただくか、各研修プログラム・基幹研修施設のホームページなどをご確認ください。

北海道

■旭川医科大学病院救急科専門医研修プログラム

■基幹・連携施設  
基：旭川医科大学病院  
連：名寄市立総合病院/市立釧路総合病院/北見赤十字病院/国立病院機構北海道医療センター/札幌東徳洲会病院

■実績(採用数/募集数)  
2017年：0名/3名, 2018年：0名/3名

■特徴  
救命医療：◎ 集中治療：◎ 外傷診療：◎  
ER診療：◎ 小児救急：○ 病院前：◎  
災害医療：◎ M C：○ 研究：○

■一言  
病院前から初診、ICU、病棟等と一連の流れをみる事ができる。各種 off-the-job training のインストラクターを目指す。

■連絡先：藤田 智  
Tel：0166-68-2852  
Mail：kyukyugaku@asahikawa-med.ac.jp

北海道

■旭川赤十字病院救急科専門医研修プログラム

■基幹・連携施設  
基：旭川赤十字病院  
連：札幌医科大学附属病院/国立病院機構北海道医療センター/帯広厚生病院/市立釧路総合病院/北見赤十字病院など

■実績(採用数/募集数)  
2017年：0名/3名, 2018年：0名/3名

■特徴  
救命医療：◎ 集中治療：◎ 外傷診療：◎  
ER診療：◎ 小児救急：△ 病院前：◎  
災害医療：◎ M C：◎ 研究：◎

■一言  
医療圏内にある利尻島での離島研修もあり、地域医療も十分に学ぶことができる清水赤十字病院とも連携しています。一次から三次まで網羅した研修が可能です。ドクターヘリも十分に研修できます。

■連絡先：教育研修センター 大京寺敦子  
Tel：0166-22-8111 (内1420・1421)  
Mail：kenshu@asahikawa-rch.gr.jp

北海道

■国立病院機構北海道医療センター救急科専門医研修プログラム

■基幹・連携施設  
基：国立病院機構北海道医療センター  
連：北海道大学病院/旭川医科大学病院/旭川赤十字病院/市立釧路総合病院/国立病院機構仙台医療センター

■実績(採用数/募集数)  
2017年：0名/2名, 2018年：0名/2名

■特徴  
救命医療：◎ 集中治療：◎ 外傷診療：◎  
ER診療：◎ 小児救急：○ 病院前：◎  
災害医療：◎ M C：◎ 研究：◎

■一言  
本プログラム修了後は救急科専門医の取得に加え、集中治療専門医の受験、麻酔科標榜医の取得なども可能です。病院で役に立ち、スタッフに頼られ、信頼される医師を育てます。

■連絡先：七戸康夫  
Tel：011-611-8111  
Mail：7shichi@hok-mc.hosp.go.jp

北海道

■札幌東徳洲会病院救急科専門医研修プログラム

■基幹・連携施設  
基：札幌東徳洲会病院  
連：北海道大学病院/札幌医科大学附属病院/市立札幌病院/福井大学医学部附属病院/川崎医科大学附属病院など

■実績(採用数/募集数)  
2017年：後期研修医採用3名  
2018年：1名/2名

■特徴  
救命医療：○ 集中治療：○ 外傷診療：○  
ER診療：◎ 小児救急：△ 病院前：△  
災害医療：○ M C：△ 研究：○

■一言  
救急車9,000台、重篤患者1,400名、入院率40%の都市型ERで、外来・集中治療・入院の十分量の実践と前教授2名の学術的サポートが特長です。

■連絡先：松山智行  
Tel：011-722-1110  
Mail：ishi-kenshu@higashi-tokushukai.or.jp

北海道

■手稲済仁会病院救急科専門医研修プログラム

■基幹・連携施設  
基：手稲済仁会病院  
連：北海道大学病院/札幌医科大学附属病院/市立函館病院/市立釧路総合病院/利尻島国保中央病院

■実績(採用数/募集数)  
2017年：1名/2名, 2018年：1名/2名

■特徴  
救命医療：◎ 集中治療：○ 外傷診療：○  
ER診療：◎ 小児救急：○ 病院前：◎  
災害医療：◎ M C：◎ 研究：◎

■一言  
ER診療から救命医療まで実践できるオールラウンドな救急医の育成を目指しています。ドクターヘリというツールでプレホスピタルにおける多職種チーム医療が修得できます。

■連絡先：奈良 理  
Tel：011-681-8111  
Mail：naras.tdr@kejijinkai.or.jp

北海道

■北海道大学病院救急医育成プログラム

■基幹・連携施設  
基：北海道大学病院  
連：市立札幌病院/国立病院機構北海道医療センター/手稲済仁会病院/砂川市立病院/札幌東徳洲会病院など

■実績(採用数/募集数)  
2017年：1名/10名, 2018年：1名/10名

■特徴  
救命医療：◎ 集中治療：◎ 外傷診療：◎  
ER診療：◎ 小児救急：○ 病院前：○  
災害医療：○ M C：○ 研究：◎

■一言  
札幌の三次救急病院として重症患者の治療を行い、院内のICUも一緒に診療しているため、年齢や疾患にとらわれない幅広い症例を経験することができる。市内や地域の病院のER支援をしており、一次から三次まで診ることができ。

■連絡先：方波見謙一  
Tel：011-706-7377  
Mail：qqjimu@med.hokudai.ac.jp

岩手

■岩手医科大学附属病院救急科専門医研修モデルプログラム

■基幹・連携施設  
基：岩手医科大学附属病院(岩手県高度救命救急センターを含む)  
連：岩手県立久慈病院/岩手県立磐井病院/岩手県立中部病院/岩手県立大船渡病院/盛岡赤十字病院

■実績(採用数/募集数)  
2017年：1名/1名, 2018年：2名/5名

■特徴  
救命医療：◎ 集中治療：◎ 外傷診療：◎  
ER診療：◎ 小児救急：○ 病院前：◎  
災害医療：◎ M C：◎ 研究：◎

■一言  
当施設は一次から三次救急まで豊富な症例を有し、専攻医個々の希望を最大限生かせるカリキュラムを構築しております。敗血症研究では世界をリードしており、充実した診療・研究を遂行できる体制を整えております。

■連絡先：井上義博  
Tel：019-651-5111 (内線6208)  
Mail：iwateqq@gmail.com

岩手

■岩手県立中央病院救急科専門医研修プログラム

■基幹・連携施設  
基：岩手県立中央病院  
連：岩手県立宮古病院/町立西和賀さわうち病院

■実績(採用数/募集数)  
2017年：0名/1名, 2018年：0名/1名

■特徴  
救命医療：◎ 集中治療：○ 外傷診療：○  
ER診療：◎ 小児救急：◎ 病院前：△  
災害医療：◎ M C：◎ 研究：○

■一言  
2017年救急受診者数21,193人。救急車搬入数7,067台。次年度以降、救急部門拡張工事予定。

■連絡先：須原 誠  
Tel：019-653-1151  
Mail：gyomu@chuo-hp.jp

宮城

■仙台市立病院救急科研修プログラム

■基幹・連携施設  
基：仙台市立病院  
連：東北大学病院/仙台オープン病院/みやぎ県南中核病院/坂総合病院

■実績(採用数/募集数)  
2017年：0名/2名, 2018年：0名/2名

■特徴  
救命医療：◎ 集中治療：◎ 外傷診療：◎  
ER診療：◎ 小児救急：◎ 病院前：◎  
災害医療：◎ M C：○ 研究：△

■一言  
救急車の受け入れ数は宮城県ナンバー1です。ドクターカーを有しており、病院前から救急外来、ICUまでシームレスな連携で、多くの症例を経験できます。

■連絡先：村田祐二  
Tel：022-308-7111  
Mail：muratey@hotmail.co.jp